

第3章 「歩くプログラム」を実施する際の 安全管理について

1 安全管理 「基本的な3つの考え方」

- (1) 想定できる危険を予知し、そのための対策を講じること。
- (2) 万が一の事態を想定した対策を講じるとともに、スタッフに対する事前研修を行うこと。
- (3) 参加者に対して安全に関する心構えを伝えるとともに、参加者が未成年者の場合には、保護者に対して活動のねらいや内容などを説明し、理解していただいた上で参加してもらうこと。

※野外の活動で起こる事故の大部分は、当事者の不注意や油断によって起こります。活動中は、基本的に「全て自己責任」という考えが大切です。事故等が起こった場合にも、初動を含め自分たちで解決することが基本となります。

2 危険因子を知る ～自然という非日常的な環境の中で～

- (1) 自然環境の危険因子
気象によるモノ、危険な動植物によるモノ、自然災害によるモノ
- (2) 身体的な危険
病気、怪我等
- (3) その他様々な危険因子
主催者の過失、交通事故、道具の取り扱いの失敗、参加者の人間関係等

3 実施前のリスクチェック ※項目の口をチェック

(1) 計画段階でのリスクチェック

- | | |
|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> テーマ（ねらい）の設定 | <input type="checkbox"/> 参加対象者の設定 |
| <input type="checkbox"/> 活動プログラムの決定 | <input type="checkbox"/> 組織づくり |
| <input type="checkbox"/> 指導者及びスタッフ基準 | <input type="checkbox"/> 場所・施設の決定 |
| <input type="checkbox"/> 用具・持ち物の決定 | <input type="checkbox"/> 輸送手段の決定 |
| <input type="checkbox"/> スタッフの事前研修（基本的な安全講習を含む） | |

(2) 実地踏査

- | | | |
|---|-----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 時期 | <input type="checkbox"/> 参加するメンバー | <input type="checkbox"/> 役割ごとの安全対策 |
| <input type="checkbox"/> 危険箇所の確認と対策確認 | | |
| <input type="checkbox"/> 関係機関（医療機関・警察署・消防署等）確認と事前連絡 | | |

(3) 事前説明会の実施

- 主旨内容の説明 持ち物についての説明 指導体制
- 指導者の責任と保険等 参加者の把握（情報収集）

4 実施中の安全管理 「大切な3つのポイント」

(1) フィールドについて

- ・ 気象状況の把握 状況により中止判断をする勇氣
- ・ 危険箇所の再確認 出発前の事前説明と確認
- ・ フィールドへ移動するまでの安全管理

(2) 参加者について

- ・ 人数の確認 バディシステム（二人一組の人員確認方法）の採用
- ・ 健康状態の把握 ・ 弱者の把握 ・ 心の安全

(3) スタッフについて

- ・ スタッフの配置とコミュニケーション
- ・ 指導者自身の安全管理と健康管理
- ・ 万が一の時を想定した事前研修の実施

5 万が一の時の対応

「被害を最小限に抑え、被害者を救済する初動体制」

- (1) 冷静になる。 関係機関への連絡 → 初期対応（ファーストエイドまたは救助活動）
- (2) 事故者以外の参加者の安全管理 安全な場所への誘導
- (3) 救助者自身の安全管理「セルフレスキュー・ファースト」
救助者となる立場の人は、何よりもまず自らの安全確保を第1に考えるべきである（不幸を二つに増やさないために）。
- (4) 初期対応の行動ステップ

正確な「状況の把握」→安全かつシンプルな「到達のプロセス」→「状況の改善・安定化」→医療機関への「搬送・移動」

※速やかな初動体制をとるためには、スタッフに対する事前研修により、初動体制に対する相互コンセンサスやとスタッフ同士のコミュニケーションに基づいた信頼関係構築が必要である。

6 引率者（指導者）になる方の日頃の心構え

～備えあれば憂いなし～

- (1) 季節や天候、フィールドに応じた服装についていつも考える。
- (2) 身近にハンドブックをおき、正しい予備知識を持つ。
- (3) 危険回避および対処の方法を日頃から考える。
- (4) マイファーストエイドキットを準備し、日頃から使用する。
- (5) 目的に合わせた安全講習会に参加する。

